

会 誌 第48号 2013.7

特集：東日本大震災報告



一般社団法人 福島県歯科衛生士会

東日本大震災報告

(平成23年3月11日～平成25年3月31日)

～地震・津波・風評被害の中で～



目 次

1.東日本大震災活動報告にあたって 被災地域対応委員会 委員長 鈴木 恵子……	2
2.平成23年度 被災者支援活動報告 ……………	3
3.平成24年度 被災者支援活動報告 ……………	8
4.東日本大震災から2年… …………… (福島、郡山、いわき、相双、会津支部長)	14
5.東日本大震災に関する会員アンケート調査結果 …………… (平成24年10月20日～11月10日実施)	16
6.震災関連資料 ……………	22
7.あとかき ……………	24

東日本大震災活動報告にあたって

被災地域対応委員会
委員長 鈴木恵子

平成23年3月11日に起きた東日本大震災は、想定外の地震・津波により甚大なる被害を受けました。福島県においては、その後に起きた原子力発電所事故により、住み慣れた故郷から避難を強いられている方、放射線による健康への影響を考えて子供を持つ家庭では家族が離ればなれに生活する方、地場産業では風評被害等の被害を受ける等の2年が過ぎました。

この時間は、同じ被災地にあっても各々が様々な思いを持ち生活してきた2年間です。

本報告は、本会がこの2年間で行ってきた活動内容を記録としてまとめたものです。

このような経験をまとめ、得られたことを教訓とし、課題を含め記録に残すことは今後の災害支援活動の在り方を考えるうえで非常に重要なことと考えました。

本会では、会員に対して、震災発生直後の安否確認及び震災の被害や震災への対応についてアンケート調査を行い、被災者に対しては、県や被災市町村と連携を図りながら避難所や仮設住宅への支援活動等を行ってきました。

会員へのアンケートでは、会員への支援について十分でないとお叱りの言葉を頂いたり、歯科衛生士会の被災者への支援活動については、励ましの言葉も頂き会員が様々な思いで、この震災を乗り越えていることが分かりました。

また、被災者への支援活動では、口腔への認識や優先度の違いから被災者への直接の支援に結びつくまでの調整に時間を要しました。

災害時の歯科保健活動は、日頃の歯科保健活動が重要であることは言うまでもありませんが、災害時には歯科保健活動の支援をコーディネートができる人材が重要でした。

当会で実施した被災者への支援方法や県や被災市町村との連携から見てきた課題を踏まえ、災害時のコーディネートのあり方を検討しコーディネートできる人材の育成が急務です。

これまでの本会の活動にあたっては、福島県をはじめ、日本歯科衛生士会等の関係団体の皆様のご支援ご協力をいただきましたおかげと心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

被災者支援総数 平成23年3月～平成25年3月

月 日	事業名	支援回数	支援歯科 衛生士数	支援 被災者数	備 考
H23年 3月～9月	ボランティア (一時避難所等)	※112	※253	※1802	把握分 のみ
H23年10月～ H24年6月	日衛助成事業 「被災者口腔ケア支 援事業」	207	255	2333	
H24年6月～ H25年3月	福島県委託事業 「被災者口腔ケア支 援事業」	325	485	3445	
H24年 10月～12月	日衛助成事業 「通所介護施設口 腔ケア支援事業」	15	63	448	
合 計		659	1056	8028	

対応経過 平成23年3月11日～4月30日

月日	地震・原発事故関係	対応状況
3/11(金)	地震発生午後2時46分 半径3キロ圏内の住民に避難指示	
3/12(土)	福島第一原発冷却機能停止。 避難区域20キロ圏内に拡大。	福島県歯科医師会より歯科医療救済活動の協力要請 5支部支部長へ被災者支援協力要請 いわき歯科医師会より休日歯科協力要請 災害対策本部設置 会員安否確認作業開始
3/15(火)	半径20キロ圏内全員避難。 30キロ圏内屋内待機。	いわき休日歯科協力(～4/2)
3/18(金)	保安院「レベル5」と発表	日衛金澤会長へ安否確認状況報告 ・相互支部会員33名中32名避難確認 ・いわき支部会員33名中22名避難確認
3/26(土)		避難所における被災者支援活動開始 (歯科医師会・保健福祉事務所・他県支援チーム等と 連携協働)
3/30(水)		会員全員の安否確認完了 日衛金澤会長へ安否確認完了報告
4/3(日)		〔いわき支部〕支部会員被災状況確認完了(第1次)
4/6(水)		〔相互支部〕支部会員被災状況確認完了(第1次)
4/9(土)		富山県JMATに協力(～12)
4/12(火)	保安院「レベル7」に修正	
4/22(金)	①「警戒区域」 ②「緊急時避難準備区域」 ③「計画的避難区域」 設定	
4/29(金)		日衛金澤会長、相馬(中村第一小学校避難所・松川浦 被災地)避難所支援及び視察
4/30(土)		日衛金澤会長、郡山(ビックバレット)、田村(田村 市体育館)避難所支援及び視察



日衛金澤会長(中央)

災 害 対 策 本 部

一般社団法人福島県歯科衛生士会東日本大震災災害対策本部設置要綱

(設置)

第1条 東日本大震災における総合的かつ迅速な災害応急対策および長期的支援を実施するため、一般社団法人福島県歯科衛生士会東日本大震災災害対策本部(以下「災対本部」という。)を設置する。

(組織)

第2条 災対本部は、会長、副会長、監事、理事、および支部長の構成員をもって構成する。
(別表参照)

2

災対本部に本部長をおき、会長をもってこれに充てる。

(協議)

第3条 災対本部は、次に掲げる事項について協議調整する。

- (1) 歯科救済支援活動・口腔ケア支援活動等の被災者支援
- (2) 被災会員支援活動等の被災会員支援
- (3) 被災支部支援活動等の支部活動支援
- (4) 被災者への広報支援活動
- (5) その他東日本大震災に関する事項

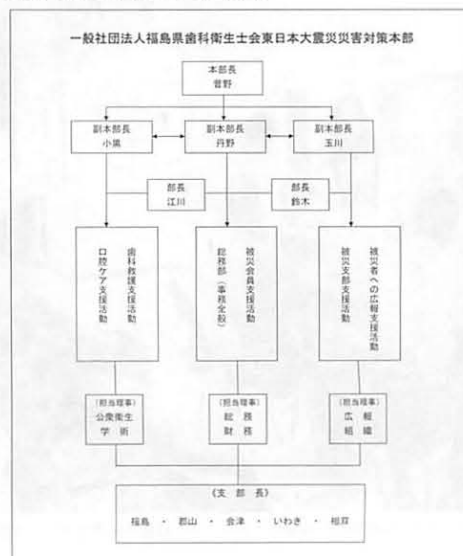
(運営)

第4条 災対本部は、本部長が招集する。

(権限)

第5条 この要綱に定めるもののほか、災対本部の運営に関して必要な事項は、会長が定める。

この要綱は、平成23年3月12日から施行する。



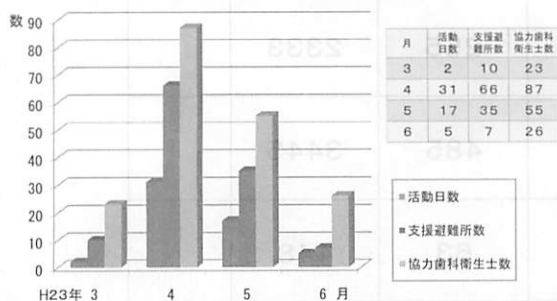


平成23年度 被災者支援活動報告

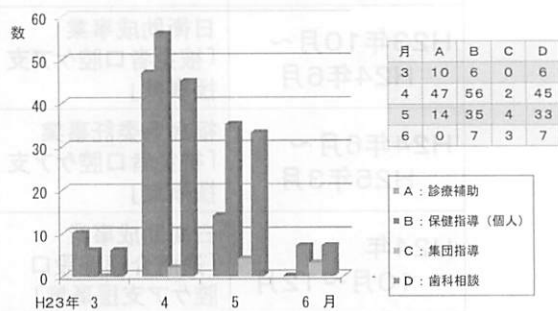


一次避難所における被災者支援活動 平成 23 年 3 月～ 9 月

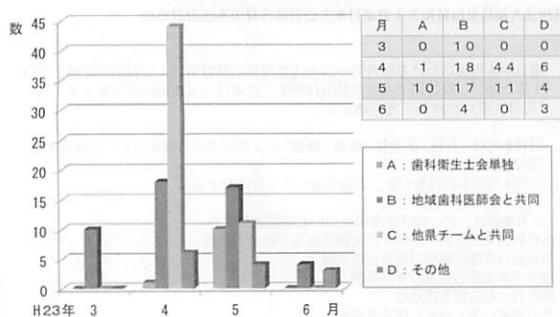
支援活動集計 (H23年3月～6月延べ人数)



支援内容(複数回答)



支援体制



〈調査票〉

歯科巡回相談のお願い

下記のような お口のことでお困りの方は、お気軽にご相談ください。歯科医師・歯科衛生士がお伺いします。

入れ歯が固くて痛い 歯が痛い 歯ぐきが痛い
歯ぐきから血が出る 口の中を点検してほしい
口の中を掃除してほしい 歯ブラシ・歯間ブラシがほしい
入れ歯洗浄剤がほしい 入れ歯の保管ケースがほしい
入れ歯の歯ブラシがほしい

その他()

今後ははまるものも○でかこんで、避難所の係の方に
お渡しください

日付 避難所名 お名前

H23年 月 日

＜連絡先＞ 福島市保健センター 電話244-3544-477
新地町保健センター 電話244-622096

歯科巡回相談のお願い

1. 歯の痛み、歯ぐきの痛み、歯ぐきから血が出る、口の中を点検してほしい、口の中を掃除してほしい、歯ブラシ・歯間ブラシがほしい、入れ歯洗浄剤がほしい、入れ歯の保管ケースがほしい、入れ歯の歯ブラシがほしい

2. 歯の痛み、歯ぐきの痛み、歯ぐきから血が出る、口の中を点検してほしい、口の中を掃除してほしい、歯ブラシ・歯間ブラシがほしい、入れ歯洗浄剤がほしい、入れ歯の保管ケースがほしい、入れ歯の歯ブラシがほしい

3. 歯の痛み、歯ぐきの痛み、歯ぐきから血が出る、口の中を点検してほしい、口の中を掃除してほしい、歯ブラシ・歯間ブラシがほしい、入れ歯洗浄剤がほしい、入れ歯の保管ケースがほしい、入れ歯の歯ブラシがほしい

4. 歯の痛み、歯ぐきの痛み、歯ぐきから血が出る、口の中を点検してほしい、口の中を掃除してほしい、歯ブラシ・歯間ブラシがほしい、入れ歯洗浄剤がほしい、入れ歯の保管ケースがほしい、入れ歯の歯ブラシがほしい

5. 歯の痛み、歯ぐきの痛み、歯ぐきから血が出る、口の中を点検してほしい、口の中を掃除してほしい、歯ブラシ・歯間ブラシがほしい、入れ歯洗浄剤がほしい、入れ歯の保管ケースがほしい、入れ歯の歯ブラシがほしい

6. 歯の痛み、歯ぐきの痛み、歯ぐきから血が出る、口の中を点検してほしい、口の中を掃除してほしい、歯ブラシ・歯間ブラシがほしい、入れ歯洗浄剤がほしい、入れ歯の保管ケースがほしい、入れ歯の歯ブラシがほしい

7. 歯の痛み、歯ぐきの痛み、歯ぐきから血が出る、口の中を点検してほしい、口の中を掃除してほしい、歯ブラシ・歯間ブラシがほしい、入れ歯洗浄剤がほしい、入れ歯の保管ケースがほしい、入れ歯の歯ブラシがほしい

8. 歯の痛み、歯ぐきの痛み、歯ぐきから血が出る、口の中を点検してほしい、口の中を掃除してほしい、歯ブラシ・歯間ブラシがほしい、入れ歯洗浄剤がほしい、入れ歯の保管ケースがほしい、入れ歯の歯ブラシがほしい

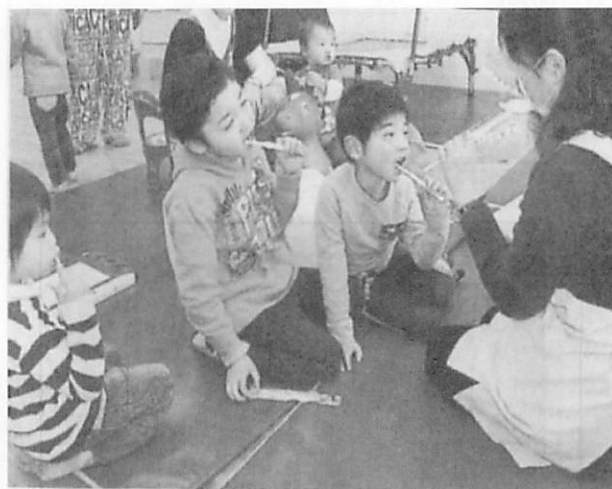
9. 歯の痛み、歯ぐきの痛み、歯ぐきから血が出る、口の中を点検してほしい、口の中を掃除してほしい、歯ブラシ・歯間ブラシがほしい、入れ歯洗浄剤がほしい、入れ歯の保管ケースがほしい、入れ歯の歯ブラシがほしい

10. 歯の痛み、歯ぐきの痛み、歯ぐきから血が出る、口の中を点検してほしい、口の中を掃除してほしい、歯ブラシ・歯間ブラシがほしい、入れ歯洗浄剤がほしい、入れ歯の保管ケースがほしい、入れ歯の歯ブラシがほしい

本会活動新聞掲載記事 (H23.4 地元の新聞掲載)



歯の手入れの仕方を指導する歯科衛生士ら＝13日、福島市・あづま総合体育館



巡回しながら歯磨きや入れ歯の手入れの仕方など、さまざまな相談に応じる県歯科衛生士会の会員
＝20日、福島市・あづま総合体育館

仮設住宅等における被災者支援活動 平成 23 年 10 月～平成 24 年 6 月

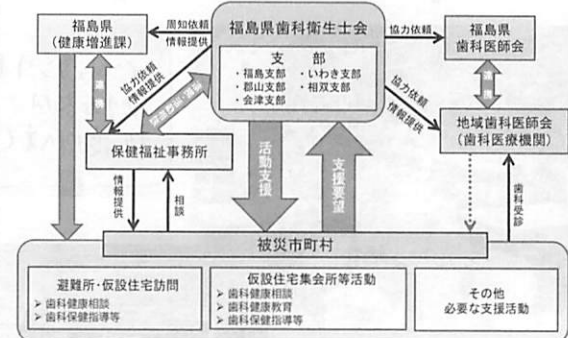
東日本大震災における被災地域への歯科保健支援活動

【活動目的】

東日本大震災の影響による、生活環境の悪化やストレスにより、被災者の日常生活における健康リスクが増大している。特に、避難生活の長期化で、口腔衛生状態の悪化に伴う歯科疾患の増加や誤嚥性肺炎の発症、また義歯の不調等による咀嚼機能の低下、食生活の変化による低栄養など、全身の健康状態の悪化や生活の質の低下が懸念されている。

そこで、被災者の口腔保健の向上、健康増進及び生活の質の向上に寄与することを目的に、被災地域の行政や施設等の要望に応じ、関係機関等と連携しながら歯科保健支援活動を実施する。

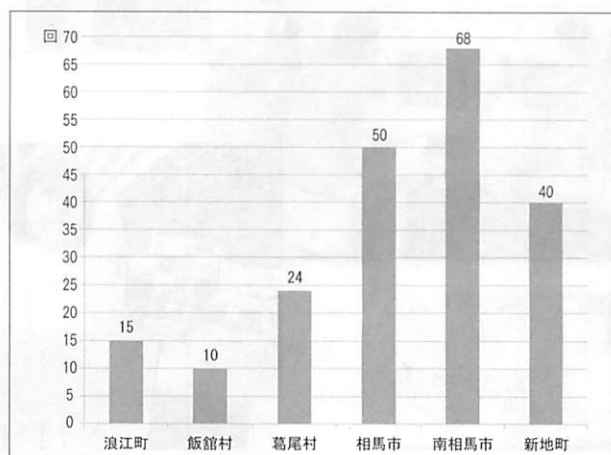
被災市町村への歯科支援活動体制（福島県歯科衛生士会）



市町村別支援状況

市町村名	実施回数	従事歯科衛生士延べ数	実施人数
浪江町	15回	15名	127名
飯舘村	10回	20名	115名
葛尾村	24回	38名	121名
相馬市	50回	55名	867名
南相馬市	68回	81名	787名
新地町	40回	46名	316名
合計	207回	255名	2333名

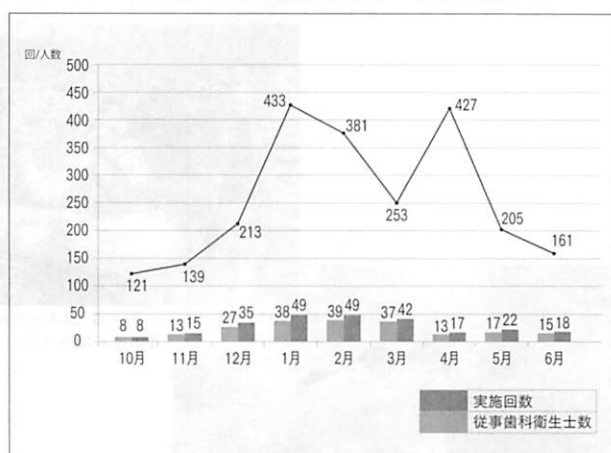
市町村別支援状況グラフ



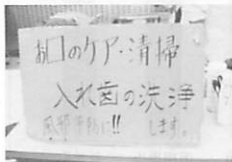
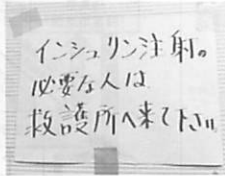
月別支援状況

月	実施回数	従事歯科衛生士延べ数	実施人数
H23.10月	8回	8名	121名
11月	13回	15名	139名
12月	27回	35名	213名
H24.1月	38回	49名	433名
2月	39回	49名	381名
3月	37回	42名	253名
4月	13回	17名	427名
5月	17回	22名	205名
6月	15回	18名	161名
合計	207回	255名	2333名

月別支援状況グラフ



避難所（郡山市）



誤嚥性肺炎予防のため、お口の中を清潔に保ちましょう

避難所などの狭い環境の中では、抵抗力が弱まり、おし歯や歯周病、口内炎などが起こりやすくなります。特に、高齢の方では、口の中の汚れが原因で、誤嚥性肺炎を起こす恐れがあります。お口の中を清潔に保つため、次のことに注意しましょう。

- 寝、寝る前には歯みがきをししょう
- 入れ歯のお手入れをししょう
食後は、歯ブラシで正しい方法で磨きましょう。
入れ歯洗浄剤も効果的です。
- よく噛んで食べましょう
噛まないと十分に消化され、口の中の汚れや細菌を飲み込んでしまいます。
- 水分を十分にとりましょう
- 舌っぺを動かして、ツクツクがいがいをししょう



他県からの支災活動

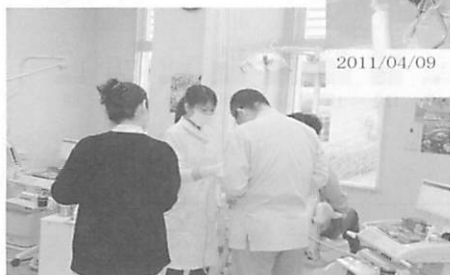


2011.04.09 いわき市での富山県医師会JMATの活動
歯科衛生士 山守さん

避難所・救急歯科診療所（いわき市）



2011/04/09 いわき市 湯本高校体育館
富山県医師会JMATの活動



2011/04/01 救急歯科診療所
(いわき市総合保健福祉センター内)



2011/04/30 和歌山県歯科医師会支援チーム



2011/04/24 岐阜県歯科医師会支援チーム

（避難所（福島市））



（避難所（高齢者対象集団指導））



（仮設住宅集会所（相双地区サロン））



（仮設住宅個別訪問（相双地区））



（避難所（子ども対象集団指導））



（障がい者施設（相双地区））



平成24年度 被災者支援活動報告

福島県受託事業「被災者の口腔ケア支援事業」 平成24年6月～平成25年3月

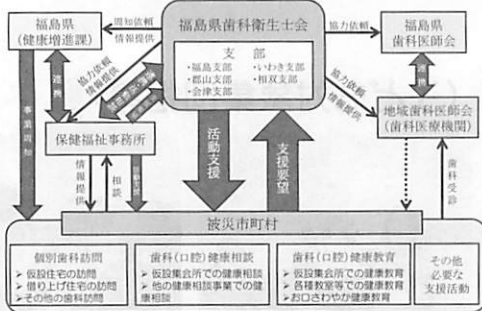
【目的】

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故により被災し、仮設住宅等において生活している被災者等を対象に、被災市町村や保健福祉事務所等の要請に応じ、口腔内の健康状態の把握や二次的健康問題、咀嚼機能の低下予防などの口腔ケア援助、受診勧奨、歯科健康相談等を行うことにより、被災者の口腔保健並びに健康増進を支援することを目的とする。

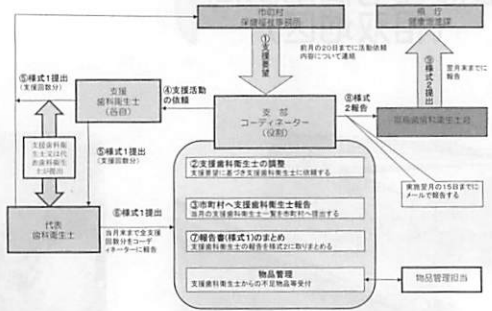
【活動内容】

- 被災市町村の歯科保健支援ニーズの把握
県保健福祉事務所等の協力を得ながら、別紙支援要望書に基づき被災市町村の歯科保健支援ニーズを把握する。
- 被災者等に対する歯科健康相談、歯科保健指導等の実施
被災市町村及び被災市町村の障がい者施設等からの要望書に基づき、被災市町村及び関係機関等と事前に打合せを行い、円滑に支援ができるようにする。
①仮設住宅及び集会所での歯科健康相談、歯科保健指導等の実施
②仮設住宅等へ訪問し口腔内状況の確認や歯科保健指導、歯科健康相談等の実施
③被災市町村障がい者施設等での要支援者（健康ハイリスク者）等に対する口腔ケア支援活動の実施
④上記歯科健康相談や歯科保健指導等から把握された健康課題等の被災市町村等への報告等の実施
- 被災者口腔ケア支援事業打合会の開催
支援活動を円滑に実施するために、関係歯科衛生士等による事業打合会を開催する。

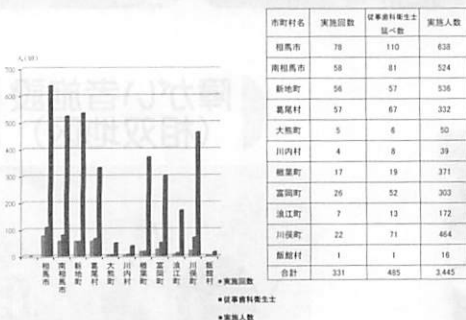
「被災者口腔ケア支援事業」活動体制



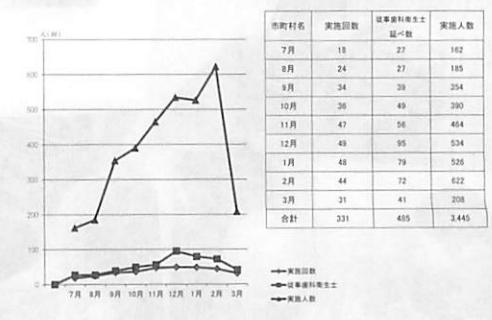
被災者口腔ケア支援事業の流れ



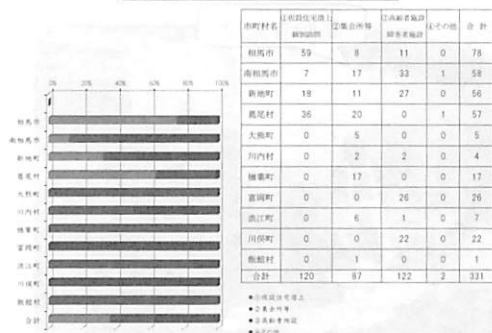
1. 市町村別支援状況



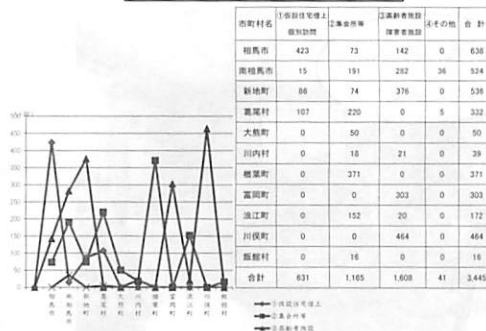
2. 月別支援状況



3. 支援内容別実施状況(実施回数)



4. 支援内容別実施状況(実施人数)



日本歯科衛生士会助成事業「被災地の通所介護施設における口腔ケア支援活動」 平成 24 年 9 月～平成 24 年 12 月

【目的】

東日本大震災から1年以上が経過した今なお、多くの被災者の方々が不便な避難生活を強いられている。特に高齢者、要介護者においては、生活環境の変化やストレスなどからくる健康状態の悪化や全身の機能低下なども認められ特別養護老人ホームやディサービス等の介護保険施設の利用者も増えてきている。しかし、原子力発電所の事故の影響で、多くの介護職員の避難や離職によって、介護保険施設の職員不足が深刻な問題となっており、利用者への継続的な支援が難しくなっている。そこで、被災地の通所介護施設において、利用者及び施設職員に対して口腔ケア等についての支援を行うことで、高齢者及び要介護者の口腔衛生状態の維持・改善、口腔機能の向上を図ることを目的とする。

【対象施設及び対象者】

1. いわき地域及び相馬地域の通所介護施設 5施設
 - ①いわき地域 2施設
 - ・ゆつたり館
 - ・寿楽庭
 - ②相馬地域 3施設
 - ・すみれディサービスセンター
 - ・ひまわりディサービスセンター
 - ・あすなろディサービスセンター
2. 利用者及び施設職員

【実施期間】

平成24年9月から平成24年12月までを実施期間とし、各施設毎月1回の支援を行い3回で終了とする。

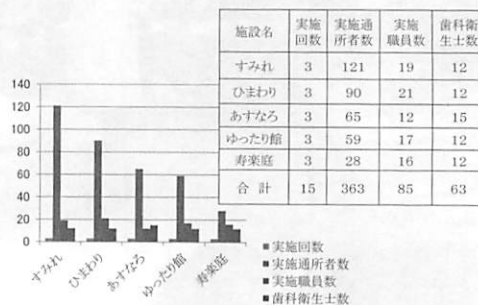
【実施内容】

1. 利用者への口腔ケア支援等
 - ・食事介助支援、口腔ケア支援、健口体操など
2. 施設職員に対する口腔ケアの実技指導、口腔ケア講習会など

タイムスケジュール

	8月	9月	10月	11月	12月
施設との事前打合せ	→				
第1回口腔ケア支援		→			
第2回口腔ケア支援			→		
第3回口腔ケア支援				→	
活動評価・まとめ					→

通所介護施設への支援状況



福島県受託事業「被災者口腔ケア支援事業」



誤嚥性肺炎は
こんな病気

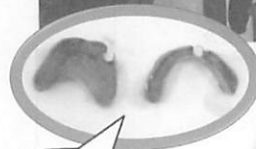


高齢者施設



パパパパパパパ パパパパパパパ

青い山脈を歌ってみましょう



義歯の汚れ



仮設サロン





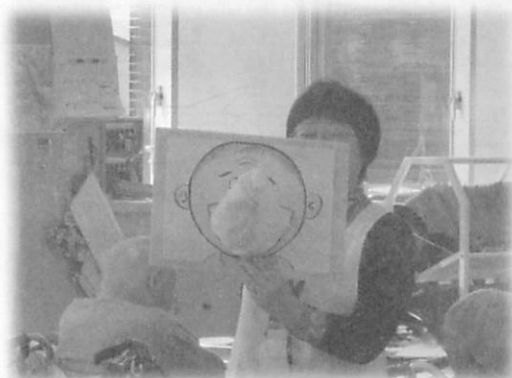
家庭訪問



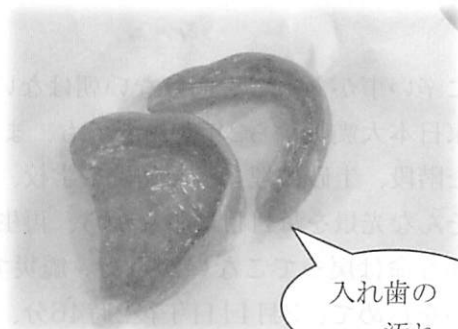
仮設住宅の野外
で健康相談



日本歯科衛生士会助成事業「被災地の通所介護施設における口腔ケア支援活動」



… 予Sの災電大本日東



入れ歯の
汚れ



舌苔！！
(ぜったい)





東日本大震災から2年・・・



どんなに辛い事があっても明けない朝はない。2年という時を刻み福島は、東北は今復興へともがいている。東日本大震災から2年が過ぎても、まだまだ深い傷は其々の胸に残ったままだ。崩れたブロック、歪んだ階段、土砂に埋まった病院や学校、汚染された土地、山積みになった瓦礫、少しずつ再生されていくそんな光景を毎日目にしながら、再生しない心の中は空っぽのままだった。何故なら、失った家族、大切な命は戻ってこないからだ。震災で死者、行方不明者を含め2万人近い尊い命が奪われた。鎮魂の思いを込めて、3月11日午後2時46分、1分間の黙祷をした。残された私達の使命は、放射能に脅かされず皆が豊で幸せに暮らせる町作りをすること、福島を再生させること。そのためには、何事も人任せにしないで、自分の持っている許容範囲の中で、出来る事を精一杯実行する。そんな気持ちが大切なのではないかと…私は、そう思う。

福島支部長 永山 直美

「あの日から2年も経つのか」というのが率直な感想です。震災は、大切な人、大切な物、そして結び合う心も、福島の多くのものを奪いました。また原発の事故によって、不本意にも故郷を離れなければならなかった人達。その人達の口腔衛生に係わってきました。口腔衛生は震災が有っても無くても必要なものです。しかし、話をしていると、一人一人の背景に「不本意にも…」というものがどうしてもあるのです。

怒りの矛先を一度は原発に向けたけど、年月は怒りを内に隠してしまうこともあります。私が行っていたのは葛尾村です。全村避難でした。週一回でしたが仮設のある三春町に通いました。集会所でクッキングと口の健康を合わせた教室を開催しました。こもりがちな人へのアプローチでした。個別訪問も行いました。栄養士さんといっしょに訪問する事で食と口の健康を結びつけました。すぐに結果として出るものでもないでしょうが…。

故郷に帰れる日まで、支援できたらと思います。メンバーも増員して、チームができれば嬉しいです。

郡山支部長 今泉志津子

1年365日、1日24時間は震災前と変わらないのに、この2年間は毎日がとても早く過ぎたと感じられました。

現在、支部活動や自身の仕事は以前と変わらず行っています。

かつて私は、「笑」にて震災直後の様相を報告しました。その当時、本会が行ってきた活動を見守っていた家族が、自分にも何か人の役に立つ事はないかと、思い巡らせていたのです。

平成24年度が始まり、歯の衛生週間で忙しくなる頃、家族に人生の転機の話が持ち上がりました。あっという間に事が進み、現在は、市民の代表のひとりとして働いています。

私は、いわき市の復興、地域振興、風評被害払拭のため立ち上がった家族を支えながら、今後も本会の活動や仕事を通して市民の皆様へお口の健康について啓蒙活動を行い、震災時の教訓を活かしながらがんばっていければと思っております。

いわき支部長 山守 理真

震災から2年がすぎ、少しずつではありますが街のあちこちで復興がすすめられています。私の実家も地震と津波の被害を受け、全壊状態でしたが、またなんとか同じ場所に再建でき、仮設住宅から引っ越すことができました。

私が勤めている医院には、今まで通って頂いていた患者さんも徐々に増えてきていますが、それ以上の復興支援のためか、様々な地域からの患者さんも増えてきています。歯周疾患の方も多く、私たち歯科衛生士の仕事も増えていますが、どこの医院も歯科衛生士が不足しているようで、求人を出しても来てくれる人がなかなかいない状態でもあります。もう少し環境が整えば、歯科衛生士の人口も増えてくれるのかな…と期待をしながら、これからも仕事を頑張っていこうと思っています。

相双支部長 酒井 裕子

3月11日 午後2時46分

その時間私はなかなか抜けぬ難拔を終え、抜歯後の注意をしていた時でした。いつもの地震にしては、長いな…と思い患者さんに説明していましたが、患者さんと「逃げますか!?!」「そうですね…」と冷静に避難したのを覚えています。

それから雪がどんどん降り始め、揺れが落ち着いてきたので病院内に戻りテレビをみると、浜のほうでは大変な事になっているではありませんか。

会津の方では被害は少なく、今回の震災は放射能という問題がありましたが、磐梯山が我々を救ってくれたおかげで放射線量も低くすみしました。

もう2年が経つというのに、まだ避難したまま戻れず故郷をなくしてしまった方々に、少しでも会津の良さを体験していただきたいと思います。しかし、今年は例年になく大雪となり受診してくる患者さんから「まいった」「毎朝起きると積もってんだもの。雪かたして1日が終わる…」との声が…我々会津の人間でも今年の雪には まいった です。夏はとても暑く、冬はとても寒いこの会津に住めるのだから、どこでも住めると笑ってさよなら出来る日を待ちわびて支援していきます。

会津支部長 渡部久美子

被災者口腔ケア支援活動報告会

〈平成 23 年度報告会〉

日時：平成 24 年 3 月 25 日（日）

場所：福島県歯科医師会館

内容：「一次避難所における被災者支援活動」及び「仮設住宅等における被災者支援活動」について

報告者：菅野洋子

〈平成 24 年度報告会〉

日時：平成 25 年 5 月 12 日（日）

場所：福島県歯科医師会館

内容：「被災者口腔ケア支援事業」及び「被災地の通所介護施設における口腔ケア支援活動」について

報告者：菅野洋子、根本ゆかり、
今泉志津子、西泰江



東日本大震災に関する 会員アンケート調査結果

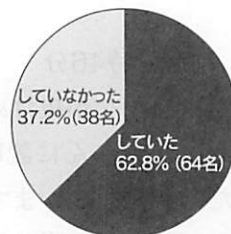
(平成24年10月20日～11月10日実施)

1. 回収状況

配布数	回収数	回収率
258名	102名	39.50%

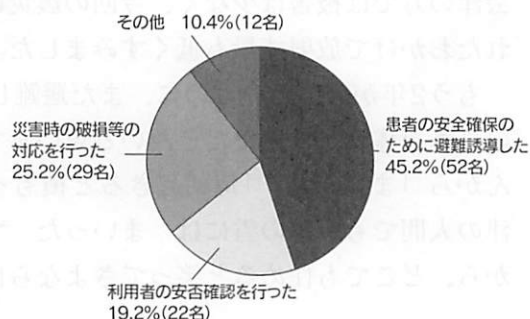
2. 震災当日、あなたは仕事（非常勤及び雇い上げも含む）をしていましたか

していた	していなかった	合計
64名 62.8%	38名 37.2%	102 100.0%



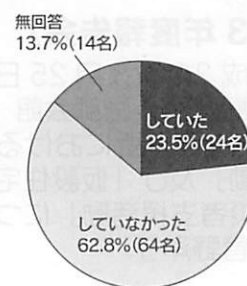
3. 震災時に勤務先ではどのように対応しましたか（複数回答）

患者の安全確保のために避難誘導した	52名	45.2%
利用者の安否確認を行った	22名	19.2%
災害時の破損等の対応を行った	29名	25.2%
その他	12名	10.4%
合計	115名	100.0%



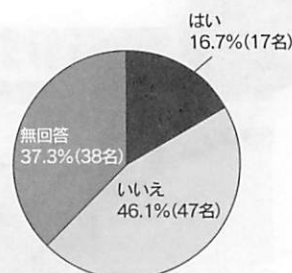
4. 勤務先では、日頃から避難訓練をしていましたか

していた	していなかった	無回答	合計
24名 23.5%	64名 62.8%	14名 13.7%	102名 100.0%



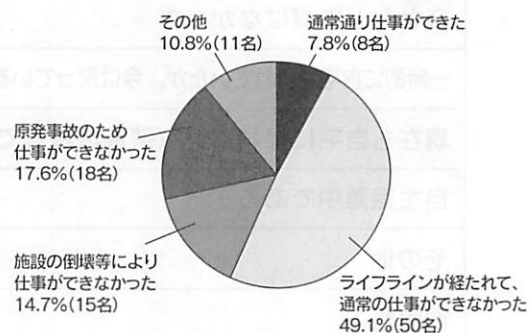
5. 震災後に、勤務先では避難訓練を実施しましたか、または実施予定ですか

はい	いいえ	無回答	合計
17名 16.7%	47名 46.1%	38名 37.3%	102名 100.0%



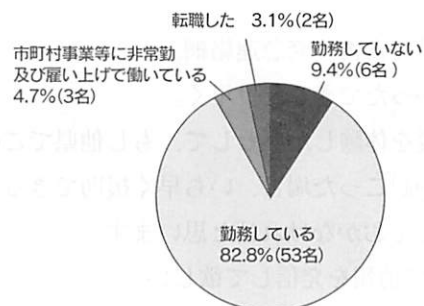
6. 勤務先の被災状況についてお聞かせください

通常通り仕事できた	8 名	7.8%
ライフラインが経たれて、通常の仕事ができなかった	50 名	49.1%
施設の倒壊等により仕事ができなかった	15 名	14.7%
原発事故のため仕事ができなかった	18 名	17.6%
その他	11 名	10.8%
合 計	102 名	100.0%



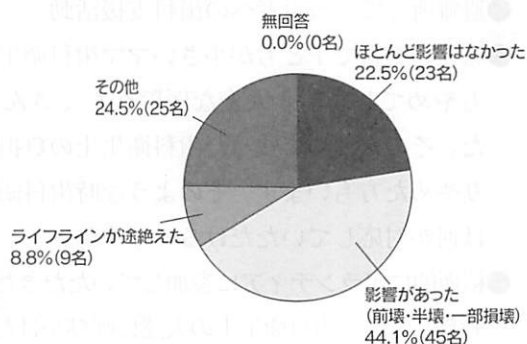
7. あなたの現在の雇用状況についてお聞かせください

勤務していない	6 名	9.4%		
勤務している	53 名	82.8%	震災前と同じ勤務先	49 名 92.5%
			勤務先が変わった	4 名 7.5%
市町村事業等に非常勤及び雇い上げで働いている	3 名	4.7%		
転職した	2 名	3.1%	解雇されたため	1 名 50.0%
			避難したため	1 名 50.0%
合 計	64 名	100.0%		



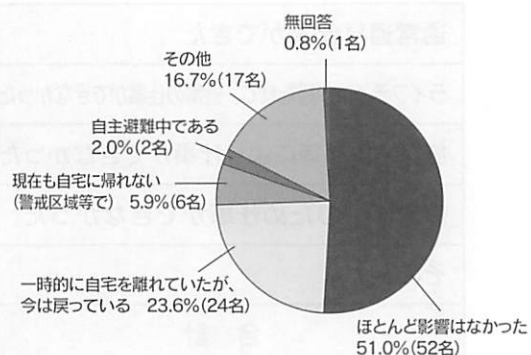
8. 地震、津波によるご自宅への影響はありましたか（複数回答）

ほとんど影響はなかった	23 名	22.5%
影響があった（前壊・半壊・一部損壊）	45 名	44.1%
ライフラインが途絶えた	9 名	8.8%
その他	25 名	24.5%
無回答	0 名	0.0%
合 計	102 名	100.0%



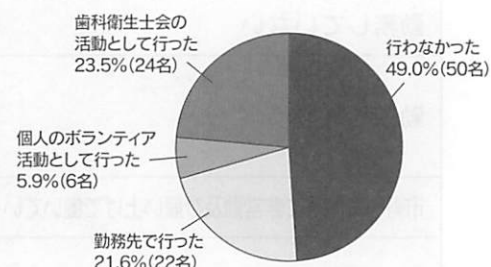
9. 原発事故による影響はありましたか

ほとんど影響はなかった	52 名	51.0%
一時的に自宅を離れていたが、今は戻っている	24 名	23.6%
現在も自宅に帰れない（警戒区域等で）	6 名	5.9%
自主避難中である	2 名	2.0%
その他	17 名	16.7%
無回答	1 名	0.8%
合 計	102 名	100.0%



10. 被災者への支援活動を行いましたか

行わなかった	50 名	49.0%
勤務先で行った	22 名	21.6%
個人のボランティア活動として行った	6 名	5.9%
歯科衛生士の活動として行った	24 名	23.5%
合 計	102 名	100.0%



11. 今回のような災害時発生時に、歯科衛生士会に対応して欲しいことがありますか

- 会員の安否、緊急連絡網。
- 遅かったできるだけ早く。
- 震災を体験した県として、もし他県でこのようなことが起こった場合、いち早く援助できる体制づくりをしておかなければと思います。
- HPで情報を発信して欲しい。
- 情報として、DHが避難地にてボランティア活動を知り、大変嬉しく思いました。
- 被災者への支援活動をしたかったのだが、初めてのことでどう行動して良いかわからなかった。早い時期からの支援ができるような流れを作って欲しい。
- 避難所等での被災者への歯科支援活動。
- 原発の影響で子どもが小さいママ歯科衛生士が何人もやめてしまい、大変な医院がたくさんありました。その穴埋めで残った歯科衛生士の負担が多くなりやめた方もいます。そのような時歯科衛生士会では何か対応していただけるのですか。
- 積極的にボランティアに参加していただきたい。特に勤務している歯科衛生士の人達に呼びかけたいです。
- 支援の要望等があれば連絡が欲しい。
- 会員同士の連絡、安否確認。
- 災害発生時、歯科衛生士としてできることを今まで全く考えたこともなかったので、このような時の会での今後の動きを考えて行かなければと思った。
- 会員が困っていても手をさしのべる状況ではなかった。ガソリン、水がない生活が3週間近くあり並んで2時間も待つ生活が続いた。
- 早急な状況確認と情報提供等をお願いします。
- 会員の安否確認、行政との連携を取りながら支援活動を行うこと。
- 原発という特有の災害だったがその地域にいなければ分からない現状があると思うので、各支部の災害状況の確認と連絡体制協力体制の整備など。
- 歯ブラシ、水の配布を被災地へ。
- 今回の会の動きは良かったと思うのでこのままでいいと思う。
- 必要な場所に歯ブラシ・コップ・洗口液・義歯用ケースなど配布できる様ネットワークを作って欲しい。会員の安否確認。ボランティアコーディネーターをする人を確保と人材育成。
- なるべく早い段階で支援活動ができればいいと思う。
- 被災者への支援活動の情報が欲しい。活動しようと

思ったがどうしてもいいか分からなかったから。

- ボランティア活動等に参加するべきと痛切に感じましたが、毎日の診療に追われると無理な状態なので大変難しいとは思いますが、歯科衛生士会から歯科診療所の院長に応援要請していただければ参加しやすくなります。
- 物資の提供。
- 避難所等の支援。
- 今回避難中だったため私自身他の方へDHとして何もできないのが心残りです。自分が災害に遭ってしまっても何もできないが、もし今後他の地域で災害が起こった時などは力になりたいと思う。災害時のDHとしてのサポート方法などマニュアルがあればいいというときに役立ちそう。
- 会員の安否確認、会として支援活動をスムーズに行える体制づくり。(支援を行うべき段階を今回の体験から整理していただきたい)

12. 今回の震災を体験して思ったこと、感じたことなど、ご自由にお書きください。

- 防災用品、食料品、貴重品を準備する等日常生活において何事にも対処できるような心構え、準備が大切だと思います。命を守る事を最優先に家族／地域とのことなど考慮すべきかと思います。
- 必要とされなくても動くことは大切。
- 歯科医師会とは全くといってよいくらい意思疎通が遅かった。市だ県だと言っていないで、できることを一緒に行動する心がけが日頃からあれば対応が違っていたのかなとも感じました。
- 体育館に避難していて夜になると子ども達にのみ支援物資のお菓子が毎日配られていて、数ヶ月で子どもの口腔環境が変わるのが分かりました。不足しているものはたくさんあるのに上手く廻らず大変だと思いました。
- 震災を体験した県民というか歯科衛生士だからこそできる支援、感じる支援があるのではないかなと思う。歯科衛生士会に入っていない人のアンケートも歯科医師会等を通じて声が聞ける方法がないでしょうか。
- 自然のおそろしさと人間の無力さを感じました。いつでも起こりうると自覚して備える(物と心)事の大切さも感じました。
- 本当に自然はすごい、災害は起こった、私にも。
- 地域での(近隣)見守り、助け合いを密にすることの大切さを感じます。連携を取ることの大切さ。
- 震災で体験した事を今後の仕事に支援活動に役立てたいと思います。まだ、避難されている方が多数いらっしゃると思います。メンタルの面でも少しでも役立てばと毎日の仕事の中で心がけています。一つでも多くの笑顔がみたいです。
- 自分がこれから災害にあった時にどう生き延びるかをしっかり考えて備えていきたい。普通に生活していることに感謝しています。
- 歯科の緊急対応マニュアル、システムがあると初動体制が取りやすいと思った。今回地元歯科医師会、歯科衛生士会の活動に感謝したい。
- 治療中に地震が起きたらどうするか。(ラバーを掛けている時、根治をしている時など)その時に応じて話合っていたので良かったと思う。
- 常勤している歯科衛生士は、自院の対応で支援活動までできないと思いました。常勤の歯科衛生士のほとんどが歯科衛生士会に入っていないので被災者支援活動について等知らないし、意識もないと思いました。
- ライフラインの大切さがとても身にしみました。
- 震災後＝戦後はこんな感じと思った。物流もライフラインもなく、福島は地震、津波、原発で今も進行している。
- 歯科衛生士会で何か支援活動ができれば良かった。(歯科衛生士として)地域のために何かしたかったが何もできなかったのも。
- 食べ物、薬などは必要と思ったが、着るものは少なくていい。いかにこれまで無駄なところにお金を掛けていたのか、そのためお互いのコミュニケーションなどお金を得る仕事のため時間がないと削ったり、社会の変化などもじつくりと目を向けていなかった。本当に必要なものは何かということに気付かせてもらった。自然の威力のすさまじさ、人間はもっと謙虚であるべきだ。
- 自ら被災し、想定外の事が起きた中で、どのように周りの人達に接するかどうか人の本質が見えました。その時に歯科衛生士としてしっかりした自覚を持って行動しなければ行けない。今後、各地に何が起きるか分かりませんが、歯科衛生士として何ができるか、物質的な支援の備えが必要になると思います。ただまずは自分が助かなければ何もできないと言うことです。

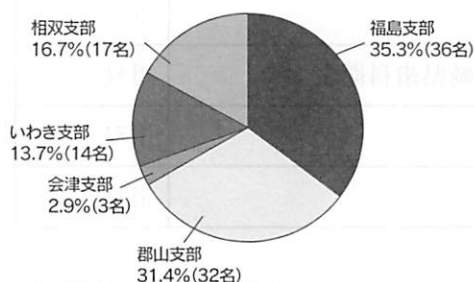
- 人間の本性。
- 自分が避難しなければ行けない立場になるとは全く考えたことがなかった。普通の日常がどれだけ幸福なことなのかを考えさせられ体験した。
- 幼い子どもを持ち、今回の震災原発事故は大変辛い出来事でした。なおかつ医療人として働いているので悩む日々でした。
- 今回の震災では、他地域と比べるとライフラインの途絶え等もなく影響も少なく感じましたが、どんな状況にも対応できるよう今後は、訓練等を行って行きたいと思いました。
- 情報がなく、困ってしまいました。福島県内の人とはごたごたしていて歯科衛生士会としても何もできなかったと思います。ライフラインが絶たれると生活は不安ばかりでした。
- 支部の人数が少ないからできることも知れないが連絡網を作ろうかと思った。
- 日常日頃の生活がいかに大事であるか、変わらない生活がいかにありがたいかと言うことを痛感しました。
- 未だに道路に崩れた石がそのままになっているので早く片づけて欲しい。
- 災害発生時に対応し得た事柄をまとめて今後に役立てて欲しいと思います。
- 今できることを先に延ばさないこと。ガソリンを常に半分以上は入れておくこと。自分の身は自分で守ること。
- 自宅、医院へのライフラインは問題ありませんでしたが、他の方の話を聞いて水の大切さを感じた。
- 警戒区域で自宅に戻れない人も多いが、その区域との境で実際に仕事を続けるかどうか、避難するしないいろいろと迷い悩んだりした人も多いと思う。同じ福島に住んでいても地域で温度差がある。30km 20kmとの線引きではないと思う。
- すぐ地震は収まると思って油断していた。自宅が心配でも仕事先からすぐ戻れず気をもんだ。ガソリンを入れるのに6時間並んで辛い思いをした。原発事故による被害のダメージが大きい。(福島県として)
- ボランティアの要望があっても今回のように被災者自身による行動はガソリンもない、放射能もあるという状況では簡単には動けないという歯がゆさがありました。
- 被災者の声として、口をすすぎたかったが水に制限があって係の人に飲むだけにしてくださいと怒られ水が不足している様子だった。
- 産休直前での震災で何もできなかった。2・3日後の産休予定でしたが医院の片づけも足手まといになるようだったし、体調も崩しそのままお休みさせてもらった状態。周りの人達に感謝でいっぱいでした。
- 勤務先で日頃から避難訓練するべきだと思った。
- 小学生の子どもがいるが歯科衛生士として、仕事「ボランティア」を優先すべきか子どもを優先すべきか、自分が歯科衛生士として何ができるかなど悩んだ時期があった。
- 震災直後は生命維持と安全が全てでしたが、2～3日経つと口腔内の不愉快を感じた人がほとんどでした。水があれば言うこともですが、口腔内を綺麗にするかは歯ブラシが一番だと痛感しました。相双支部に関しては、玉川さん和田さんが中心となり避難を強いられた立場であることなのに本当に心温かく地域の人に寄り添っていた歯科衛生士の姿を見て、歯科衛生士の底力を感じました。
- 家族が身近にいて心強かった。
- 震災直後宮城県に押し寄せる津波をみて愕然とした。世の中で絶対安全はないという事実と共に原発の再稼働は考えられない。
- 支援活動に携わっている人々がいる中で自分は仕事をしていることを理由にこの大災害時に手助けをしなかったことが悔やまれます。まだ復興途中なのでこれからでもできることをしていきたいと思います。
- 人と人の絆、助け合いの精神を学びました。また、震災は忘れてはならないもの、未来へと伝えていくべき事と思いました。
- あまりにも大きな災害だったので原発の影響でどのように対応していけばよいのか考えられなく、時間があってもボランティア活動に協力できず、家族と自分のことを考えることで精一杯でした。
- 口腔の問題は表面化しにくいと感じた。
- 勤務中はなかなか避難訓練など行えていなかったが、行う必要があると思いました。また、自身が被災してしまうと精神的にも余裕がなくなってしまう支援する立場に立てなくなってしまうと感じました。
- 今回の震災を体験し、口へ入ることが大変だったこと、まずは命の安全からだったと言うこと、普段から地域での口にたいしての取り組み方で温度差があり試された感じがした。
- いろいろなところで歯科衛生士の資格が役立つことが

分かった。今までの生活のありがたさを痛感しました。

- 常日頃から家族でよく話し合い、避難訓練には参加すること。非常時の蓄えが必要であると感じた。

13. どちらの支部に所属していますか

福島支部	36名	35.3%
郡山支部	32名	31.4%
会津支部	3名	2.9%
いわき支部	14名	13.7%
相双支部	17名	16.7%
合計	102名	100.0%



14. 当会へのご要望ご意見をご記入ください

- 会長さんはじめ、執行部の方々の県警などの力に感謝しております。御世話になるばかりですがよろしくお願いします。
- 歯科衛生士会では、避難所に来てくださりできることをしていただいたと思っています。ありがとうございました。
- お疲れ様、回答遅くなりすみません。
- 先の見えない避難生活が続いていますが、福島の復興のため今後自分ができることを少しずつ行動を起こしていきたいと思います。
- 会員一人が困っても、何も連絡がなくシステムもなく歯科衛生士会には期待ができないと思います。安否確認は後からありました。見舞金はありがとうございます。
- この震災で役員の方々は本当にご苦労さまでした。まだまだ続きますがよろしくお願いします。
- 仮設住宅における訪問保健指導など本会会員が取り組んでいる事業を対外的にPRして欲しい。報道関連機関の記者に訪問活動事業に同行して

もらうなど。歯科衛生士を寄り広く社会に知ってもらう良い機会だと思います。

- 何かできることはありませんか。何かお手伝いのできればと思う歯科衛生士は多かったように思います。窓口を作り早めの行動が人を救えると思皆で考えて欲しいと思います。ただ、福島で身近で起きたことで考えさせられましたが、他県でとなるとまた違った支援になるかと思います。本当にこれから先、少しでも明るい話題を聞けるよう何をしたらよいか考えさせられます。
- 震災+原発事故の風評被害がまだまだ続いている本県は被災者が被災者を支援している現状なので金銭的支援も必要だがまだまだ他県や日衛からの人的な支援が必要かと思います。

〈まとめ〉

勤務先での避難訓練は、日頃していた24名(23.5%)、していなかった64名(62.8%)であり、震災後に勤務先での避難訓練が実施或いは予定されているのは17名(16.7%)であった。

勤務先の被災状況は、通常通り仕事できたのは8名(7.8%)であった。現在も歯科衛生士として勤務している者は、53名(82.8%)いるが、そのうち勤務先が変わった者が4名(7.5%)いた。

地震や津波による自宅への影響は、23名(22.5%)がほとんど影響がなかったとしており、原発事故による影響は、52名(51.0%)がほとんど影響がなかったとしている。

被災者への支援活動は、行わなかったが50名(49.0%)だった。

歯科衛生士会への対応の希望は、安否確認や被災者支援だけでなく、物資の提供やマニュアルの作成等の要望があった。今回のアンケートは震災後1年7カ月が経過しての実施であり、震災の影響が大きかった会員は多数他県へ避難し本会を退会していたため、震災時本来の状況はこのアンケート結果よりも深刻だったと推測される。

回答者の自由記載は、47名(46.0%)あり、震災による教訓や歯科衛生士の職業観の再構築など多数のご意見を頂いたので今後の会活動に活かしていきたい。

震災関連資料

他県からの歯科支援団体一覧

支援チーム	活動期間	支援歯科衛生士会	支援地区
広島県歯科医師会チーム	4/24 ~ 4/28	広島県歯科衛生士会	郡山
島根県歯科医師会チーム	4/29 ~ 5/3	島根県歯科衛生士会	郡山
JMAT 富山県チーム	4/9 ~ 4/12		いわき
岐阜県歯科医師会チーム	4/24 ~ 4/28	岐阜県歯科衛生士会	いわき
和歌山県歯科医師会チーム	4/29 ~ 5/2	和歌山県歯科衛生士会	いわき
大阪厚生年金病院歯科口腔外科	5/3 ~ 5/5		いわき
長崎大学チーム	4/4 ~ 5/26		相双
	5/16 ~ 5/21	長崎県歯科衛生士会	
東京歯科大学チーム	4/25 ~ 4/28		相双
宮崎県歯科医師会チーム	4/29 ~ 5/2	宮崎県歯科衛生士会	相双
石川県チーム	5/3 ~ 5/4		相双
きょうどう歯科チーム (東京都)	5/6 ~ 5/7		相双

東日本大震災 災害義援金・見舞金等寄付者及び団体一覧

(敬称略)

月 日	寄付者・団体	備 考
H23.4/12	日本歯科衛生士会	災害活動助成金
5/15	山形県歯科衛生士会	災害見舞金
5/17	富山県保険医協会	JMAT への協力謝礼
8/28	北海道歯科衛生士会旭川支部	義援金
10/1	日本歯科衛生士会	口腔ケア支援助成金
H24.1/22	猪野貞子	義援金
3/30	日本歯科衛生士会	災害活動助成金
4/22	東京都歯科衛生士会	災害見舞金・支援物資
6/4	匿名	義援金
9/9	高橋浩二	義援金
10/10	日本歯科衛生士会	地域支援助成金
H25.2/17	大阪府歯科衛生士会	災害見舞金

福島県へ義援金の贈呈



活動時着用



ベスト

日本歯科衛生士会正会員福祉給付規程特例受給者

被災状況区分	受給会員数
家屋の流出、損壊 (全壊・半壊)	14
原発事故による避難生活 (1 か月以上)	25
家屋の床上浸水	0
合計	39



ビブス 表・裏

地震・津波・原発事故・風評被害の中で

一般社団法人福島県歯科衛生士会 会長 菅野洋子

今まで経験したことのない大きな揺れと長さ・・・

あの日から福島は終わりの見えない長い戦いが始まった。

平成23年3月11日14時46分に発生した地震により、本県は沿岸部を中心に甚大な被害が生じ、多数の集落の壊滅が判明し、被害は未曾有の規模に拡大した。福島県はその後世界中を震撼させた原発事故と風評被害が加わり、被害は多岐で広範囲に拡大する結果となった。

会議中だった私は、会議が中止となりやっとの思いで家に辿りつき、テレビのスイッチを入れた。そこに映し出されていたのは言葉を失うほどの惨状だった。言いようのない不安に押しつぶされそうになりながら始めた会員の安否確認は困難を極めた。特に原発事故による会員の県外避難は日増しに増え会員把握もままならなくなっていた。幸い会員に犠牲者はおらず安堵したが、会員の様々な被災状況が判明し心が痛んだ。

その後本会は支部単位で被災者支援活動を始めた。本会の被災者支援活動への会員登録者は60名を超え、支援活動は現在も続いている。当初福島県は原発事故による風評被害で支援物資やボランティアが全く入ってこなかった。そのような中、たくさんの歯科衛生士会から福島県の支援に入っていた。家族の反対を押し切ってまで福島県入りしてくださった歯科衛生士の方々には感謝しきれない。震災直後は1次避難所における救急医療支援や口腔ケアなどの支援が中心だったが、ほとんどの被災者が仮設住宅に移った現在は支援のあり方や連携の取り方が難しくなっている。被災地の一日も早い復興を願い今後も被災者の長期支援に取り組んで行きたい。

季節は冬から春そして夏へと移り、怒涛の数か月は私達に様々なことを考えさせた。

あの日福島はたくさんのものを失った。原発事故は平穏な毎日を送っていたたくさんの家族をばらばらにし家族崩壊へと追いやった。目に見えない放射能と戦う日々はこれからも続く。しかし、私達の故郷を思う心と大切な人を思う気持ちは変わらない。まだまだ震災の傷跡は消えないが、悲しみを希望に変えるべく、復興へ向け一步一步前へ進んで行きたい。福島の輝く未来を信じて！！

最後に、全国の皆様からたくさんのお見舞い、そして多くのご支援、ご声援を頂戴いたしましたことに心から感謝申し上げます。

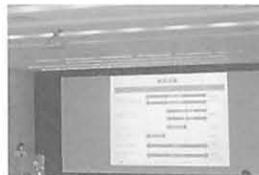
1.日本歯科衛生士会 歯科衛生推進フォーラム

日時：平成23年7月31日（日）

場所：日本歯科大学九段ホール

内容：緊急フォーラム「東日本大震災の被災地支援
～歯科衛生士会の活動～」

報告者：会長 菅野洋子



2.日本歯科衛生士会 災害支援歯科衛生士フォーラム

日時：平成24年3月18日（日）

場所：東京ステーションコンファレンス

内容：報告「東日本大震災被災地区支援活動の状況について」

報告者：会長 菅野洋子



3.日本歯科衛生学会 第7回学術大会ワークショップ

日時：平成24年9月15日（土）

場所：いわて県民情報交流センター

内容：～みんなで考えよう～

災害時に歯科衛生士ができたことこれからできること。

報告者：副会長 玉川春美（相双保健福祉事務所健康増進課）



あ と が き

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から二年が経過しましたが、福島県においては、東日本大震災及び原子力発電所事故により、県内全域で深刻かつ広範囲な影響を受け、多くの県民が仮設住宅等への避難を余儀なくされ、現在も長期にわたる避難生活が続いています。

本会では震災直後より支援活動を開始し、現在も支援活動は継続していますが、今回これまでにやってきた本会の二年間の被災者支援活動をまとめました。

震災発生直後の連携も体制整備も不十分だった混乱期から、長期支援に入った現在まで、試行錯誤を繰り返しながら行ってきた被災者支援活動ではありますが、本会ではこの二年間で8000名を超える被災者の方々の支援を行ってきました。支援活動659回、支援歯科衛生士数述べ1056名の活動の記録から、歯科衛生士会として何ができて何ができなかったのかを振り返り、そこから今後に繋がる何かが見えてくることを願っています。

同じような災害は日本のどこでも起こりうるのだと思います。被災の状況によって、必要とされる支援の仕方は違ってくると思いますが、今回の報告が東日本大震災という悲惨な出来事を風化させないための貴重な記録となるばかりではなく、期せず起こりうる有事に備え、今後起こりうる災害の支援対策の一助になればと思っています。

この度福島県歯科衛生士会では、東日本大震災における被災者支援活動に対し厚生労働大臣感謝状をいただくことができました。これまで本会が被災者支援活動を継続して行ってきたことができたのは、これもひとえに日本歯科衛生士会はじめ関係団体の皆様、そして全国の皆様からいただいた人的・物的そして精神的なご支援・ご協力のおかげと心より深く感謝申し上げます。

一般社団法人福島県歯科衛生士会

会長 菅野 洋子

厚生労働大臣感謝状受賞



県庁にて感謝状を拝受(5月7日)



支援活動報告会にて会員へ受賞報告(5月12日)

